



『シェヘラザード』でのザンダー・パリッシュ Photo: E. Kauldhar/Dance Europe

ザンダー・パリッシュ、ロシアを語る

ロイヤル・バレエ出身で、マリンスキー・バレエで進境著しいザンダー・パリッシュ。この夏はアンドリス・リエパがプロデュースした“21世紀のバレエ・リュス”公演に参加し、ロンドンでさらに成長した姿を示しました。『ばらの精』初演を翌日に控えてのインタビュー（聞き手：マイク・ディクソン）を、要約版でお伝えします。

ディクソン（以下MD）：サント・ペテルブルグに住むようになって3年ですね。もう慣れましたか？

パリッシュ（以下XP）：ええ。冬は長くて寒いですが、街には壮麗な建築物も多く、水に囲まれた生活はとてもロマンティック。白夜も魔法のようです。僕のアパートはカーテンがとても薄くて、なかなか寝付けないのが困るんですが…僕はロシア人とは合うみたいで、バレエ団の中にも外にも、友達ができました。初めは食料品の調達に苦労したけど、最近ストックマンズというスーパーができて、何でも揃うようになり

ました。この食料品売り場は、僕が知る限り世界一。でもイギリスから帰るときには好みのシリアルをスヌーツケース一杯に買ってくるし、みんな僕のことを“食材にこだわる奴”だと思っているでしょうね。

ペテルブルグはバスの便がよく、手頃な運賃で時間どおり運行してくれるので、市内を観て回るのは楽ですよ。独特の機能性で、うまく回っている都市だと思います。入団したての頃は不安と隣り合わせでこの街に戻ってきたものですが、今では我が家に帰る気分です。もちろん帰国して家族や友達に会うのは大好きだし、ロンドンはいくらからずっと僕の心の中で特別な場所でありつづけるでしょうが。

MD：今年は『ジゼル』をはじめ、大役をたくさん踊っていますね。アルブレヒトの後も、次々と初役で成功を収められたようですが。

XP：先日も、エミール・ファスキ振付の新作『サロメ』で、洗礼者ヨハネの役を初演したばかりです。『アポロ』では僕自身テンションが上がりましたが、観客のみなさんも満足して下さったようでした。他にもツアーで『シェヘラザード』の黄金の奴隷を踊りましたが、芸術監督のユーリ・ファテーエフも、このときの僕には驚いたんじゃないかな。僕はこの役が大好きなんですけど、普段の古典や新古典のレパートリーとは、かなり違った自分を出せたと思います。今、自分でも古典の全幕をもっと踊る準備はできていると感じますが、やはりファテーエフの判断に従っていくつもりです。彼はこれまで常に僕が進むべき方向を示し、どの役を踊れるかをその都度見極め、力を伸ばしてくれました。この10月にはロミオを踊ることに決まり、早ければ11月に『白鳥の湖』でも王子を踊らせてもらえそうです。でも“いかにも適役”以外の役にもチャレンジしたいし、じつは今何より興味があるのは『海賊』のコンラッドなんです。新しい役を準備するのは、特に演技の面が面白いですね。自分は技術だけのダンサーではないと自負しています。

MD：新しい役が次々と回ってくるというのは、ツアー公演が引きもきらないということでもありますね。去年はどこで踊りましたか？

XP：近いところでは、サドラーズ・ウェルズ劇場です。アリーナ・コジョカルが故国であるルーマニアのホスピス支援のために主宰したチャリティで、『101』という速くて見せ場の多いユーモラスなソロを踊り、アリーナの“ローズ・アダージョ”の求婚者の一人としても出演しました。他に昨シーズンはカザフスタン、モスクワ、ミシガン州デトロイトでのガラに出て、マリンスキーのツアーではモスクワ、ドイツ、アブダビ、イタリア、それからカリフォルニアとワシントンD.C.でも踊りました。その都度違う舞台に立つと、空間の使い方が身に付きますね。これは、ツアーの少ないロイヤルにいた頃には不可能だったことです。昨シーズンは主役として11回、ソリスト役で35回、そして群舞では21回、マリンスキーの舞台に立ちました。そのうち9回が初めての役でした。

MD：マリンスキーでは、身体的精神的に変化はありましたか？

XP：ええ、とても。身体的には、特に上半身が強くなってパートナーング術も上達しました。そういう実感が重なれば自信になりますし、技術が万全ならリラックスできる。すると精神面でも、自分が本来打ち込みたい演技やスタイルの面に集中できるという、好循環です。

MD：ロイヤル・バレエから、戻って来てほしいと言われたら？

XP：ゲストとしてなら、踊りたいですね。でも僕は今、マリンスキーの団員であることが、とてもうれしいんです。恵まれた環境でよいコーチに学び、すぐれた芸術監督がいて、古典ダンサーとして日々学んでいるところです。でも妹のデメルザがロイヤル・バレエの団員なので、彼女を通じて繋がりは保っているし、休暇でロンドンに戻っている間はカンパニー・クラスにも出ているんですよ。（訳：長野由紀）